

特集 「子ども一人ひとりが生き生きと学ぶ教育の推進」

— 平成24年度「授業の達人公開」 —

仲間と共に学び合い、共に伸びようとする 子どもや集団を目指す授業づくり ～シンプルな活動と学びの成果が実感できる体育授業の工夫～



桜区 新開小学校 教諭 三 谷 茂

1 公開授業の概要

(体育科：6年生／7月)

(1) 取り上げる主な運動教材

- ・逆立ち(体づくり運動)
- ・逆上がりと後方支持回転(鉄棒運動)
- ・ストレートバトンパス競走(陸上運動)

(2) 目標

- ・肘を伸ばして10秒間逆立ちができる。
- ・「回る」技を高めることができる。
- ・バトンの受け渡しの技能を高めながら、力いっぱい競走することができる。
- ・応援やお手伝い(相互補助)をしたり、判定や記録などの役割をしたりして、仲間と協力して運動ができる。

(3) 主な手立て

- ・共通課題で場や活動をシンプルに設定する。
- ・年間固定のペアや体育班(背の順・男女2名ずつの4名。ペアも同班。*)で活動する。*
- ・応援やお手伝い(相互補助)の活動をする。
- ・目標の運動に関連した動きを取り入れる。
- ・できるだけ教材を競走(争)・ゲーム化する。
- ・できばえを記入し評価する等、体育ノートを活用する。 ※リレーは走力考慮のリレー班。

2 授業の実際

(主な運動場面と流れ)



年間固定のペアでカエル・足打ち・逆立ちを見合ったり、お手伝いしたりする。



「だんごむし」(腕曲げ持久懸垂) 10秒を隣の班と競争。応援で盛り上げる。



「ふとんほしジャンケン」隣の班と勝負! 2回勝ったら勝ち! 帽子の色を変えて4人の合計。



「10秒逆上がり」お手伝いありで、お手伝い逆上がり〇回として認める。班でお手伝いする。



この日は逆上がりがもう少しでできそうな子をどうしたらできるか話し合い、アドバイスをもらって挑戦させた。(残念ながらあと少し。)



対抗戦で隣のレーンのチームと競走。50mを2人でバトンパス競走。7レースで合計勝負。

その他、取り上げた運動には、よじ登り逆立ち、大股スキップ、ツバメ、後ろふり跳び、10秒鉄棒(逆上がりまたは後方支持回転)、踏み越し下りなどがある。

3 まとめ

前記の手だてによって子どもの活動が評価しやすくなり、子ども同士や教師との間で課題や成果を共有でき、学びの成果が実感できる。例えば、「だんごむし」「ふとんほしジャンケン」は低中学年でも十分に楽しめる運動であるが、本単元では逆上がりや後方支持回転へ向けての関連した動き(終わり方は「起き上がりで終わる」ことを本単元では行わせた)として取り上げた。このような小さなステップを共通課題として積み重ね、全体の学びとして大切にしている。特に、全体として技能向上が図れるように長期間に渡って運動できる組み合わせ単元を積極的に行うようにしている。その際小さな伸びを認め合うことやできそう(できた)という実感を、個々はもちろん学級としてももたせることが大切だと考える。また補助活動やできない子へのアドバイスなどの認め合いや学び合いを通して集団としても高められる関係をつくりたいと願っている。